

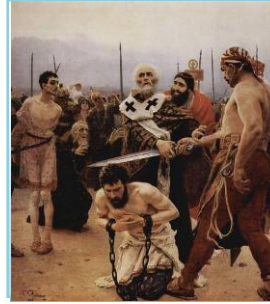
12月6日

主教ニコラス

Ἅγιος Νικόλαος

(? ~ 345 / 352)

～サンタクロースのモデル～



「ミラの聖ニコライ

無実の三人を

死刑から救う」

イリヤ・レーピン画

1844～1930

ミラの主教(司教)であり聖人であるが、ミラ(現在のトルコ)で主教として働いていたこと他には、ほとんど知られていない。ただ彼は、特に貧しい人に対して心を配った人物として知られており、様々な伝説を残している。

右上の絵画に描かれているのもそのうちの一つだが、総督が賄賂をもらって三人の兵士を無実であるにもかかわらず死刑にする、という判決を言い渡した事件があった。その時ニコラスは処刑場にまで赴き、刑の執行をやめさせ、また総督が非を認めるまで決然と論じたという。

また貧しい家で病人の父親を救うために、三人の娘が自らの身を売ろうとした。そのとき窓から金袋が投げ込まれ、娘たちも父親も助かった。その金袋を投げ入れた人物がニコラスであったと言われている。

このような伝説から、スイスやドイツ、フランス、オランダなどではニコラスは子どもの保護者として尊敬されていく。そして彼の祝日の前日12月5日に子どもに贈り物をするようになる。さらにこれに北欧のトナカイゾリにのる慣習が付加されていく。これを移民たちがアメリカ大陸に伝え、現在は商業主義となってしまうが、サンタクロースが誕生する。ちなみに「クロース」とはニコライの英

語なまりとも、オランダ語読みとも言われている。

さて、ニコライはこの伝説からもわかるように大変人気のある聖人だった。6世紀にはコンスタンティノポリスにその名のついた教会が建てられ、また9世紀には全ギリシア教会で聖母マリアに次ぐ聖人として崇拝される。また10世紀にオットー2世が東ローマ帝国から妃を迎えたことにより、西欧でも崇敬がはじまり、11世紀にイタリアの兵士がニコライの遺物を盗み出してパリに移したことで、西欧全体にその人気は広まっていく。

ニコライはギリシアとロシアの保護聖人で、また、水夫、子ども、商人、質屋の保護聖人でもある。

彼はローマ帝国の最後の迫害時に投獄され、拷問を受けたとされているが、これも定かではない。

(Y)

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教ニコラスを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン